

わだ い



5月3日青年教育センターでの成人式。498人が新たにおとなの仲間入りをしました。

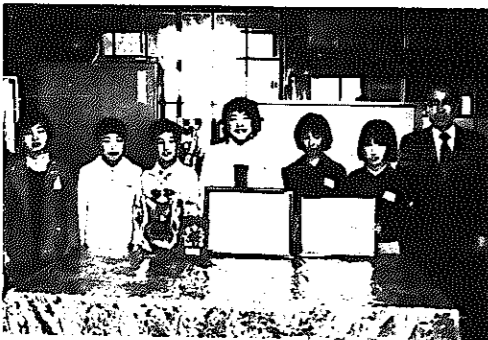
今日からおとなの仲間入り

母さんおいしいヨ

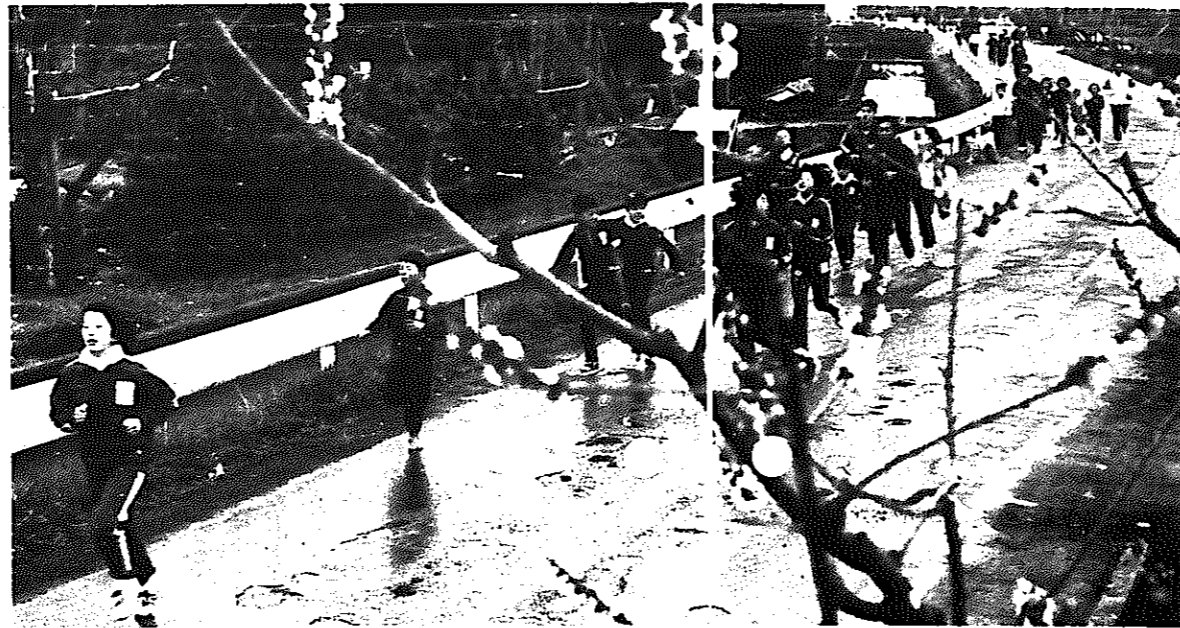


中央保育園の園児が、5月の風もこころよい日に、児童公園で昼食会……。お母さん自慢の弁当を、みんなおいしそうに食べていました。

そろばん県下一白根小



第9回全国小学生珠算競技県大会で、白根小が団体、個人（同校6年秋山利春君）とも優勝しました。



茨曾根 走ろう会

走ろう会

さわやかな朝に100人

「明るい地域づくりには、まず健康であらねば」と、茨曾根地区に「走ろう会」が誕生——全地区民に参加を呼びかけ、毎月第3日曜日の朝7時から「走れー」「走れー」とばかり、老いも若きも体力づくりに励んでいます。

1回目の4月17日は、あいにくの雨あがり……それでも約100人が参加し、1キロのコースに挑戦！ さすがに子どもたちはスピードグングン。大人は、日ごろの調教不足がたたりハァハァ——3歳の笠原清明ちゃんが完走に、みんな「まっ青、——さわやかな、さわやかな朝でした。

走ってひとこと

中村和雄さん（道滯）



朝に走る——本当に気持ちがいいですネー。「おはよう」「おはよう」とかわすあいさつだけで、意義があると思うんです。ただ、残念なことは、若い人たちが少なかったことです。もっと積極的に参加してほしい。からだを一番動かさなければならぬ年代だと思われ、体力的にも落ちてくる時期ですから……。



▲苦しさも忘れ——ハイ、チーズ。



▲ピッタリきまった 茨曾根調



▲ボク/まだ目があかないヨ

農家のあじろり

すばらしい仲間とともに



西脇博さん (下八枚=22歳)

子どものころから、農家のあじろりとして歩んできたせいかな。農業を志すにあたっては、少しの抵抗ありませんでした。しかしながら、労働条件のきびしさ、収入の不安定など、いろいろな問題を考えたとき、やはり不安もありました。そんなとき、友だちに誘われるままに、ある農業サークルに参加しました。そして、すばらしい仲間を多く知ったのです。「農業こそ自分の道——」と決

め、意欲的に取り組む同世代の若者たちです。そんな仲間との出会いは私にとり、大きな魅力でした。知識や技術の交換はもちろんお互いの農業観あるいは人生観についての語りなど……私に与えてくれた影響は、はかり知れません。今日の、われわれ後継者は大変めぐまれていると思います。青年農業士の制度や各種助成金の貸し付け、農業講座の開設

など、国や県、市でも後継者育成に努力し、農業の未来に大きな期待をかけているのです。その努力にむくいるためにもわれわれは、自ら未来を切り開く努力を、おしんではいけないと思います。そして、私は、立場を同じにするすばらしい仲間との、ふれあいの中から、今、何か自分自身にふさわしい農業を、見つけ出せそうな気がするのです。